

地域スポーツ団体

アンケート調査結果

市立中学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画の策定等にあたって、参考とするため、地域スポーツ団体にアンケート調査を実施した。

アンケート実施期間 令和6年1月30日から3月11日

アンケート回答数 令和6年3月11日回収時点 36団体

国が部活動改革を進めていることを知っていますか？

1 知っている	29
2 知らない	7
無回答	0
合計	36

今後、立川市でも部活動の地域連携・地域移行を進めていきますが、部活動の地域連携・地域移行に協力したいと思いますか？

1 思う	20
2 思わない	2
3 分からない	14
無回答	0
合計	36

部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画案（たたき台）などについてのご意見・ご感想

①地域クラブ活動の運営団体・実施主体の確保について

【競技団体】

1. チームの卒業生たちが中学校部活に入部している事で、親御さんがそのまま、お手伝いが可能な方が多々おりますので、連盟含めお手伝いが可能です。
2. 中学校では多種の部活動が行われていて、全てのクラブ活動を地域のスポーツ団体等に移行するのは難しいと思います。会費の格差等で学生がやりたい部活動ができない事も考えられ、平等ではなくなるのでは？ 大会や練習試合等に引率する場合の安全対策等、検討すべきことはたくさんあります。
3. 企業やプロスポーツに属さないマイナー競技は、衰退していく契機となるように思える。現時点では、教師の働き方改革に名を借りた地域への押し付けだと思っている。生徒のニーズが競技力を重視し、勝ち負けにこだわるのか、コミュニケーションを重視し、楽しくやりたいのどちらかにあるかによって、運営者の関わり方もかなり変わると思う。
4. 中学校内に道場を設置し、必要備品を準備する。
5. 若い人材がいない連盟運営自体が難しい。
6. 競技の実践を通してその教育への連携が具体的に見通すことができない状況にあります。指導者の選任も難儀に思われます。
7. 体協所属の競技団体は、高齢化のため中学生とは年齢差がありすぎて適さないと思います。市内在住、在勤の経験者を広報等で協力を求めた方が良い。まず、学校のクラブ活動のコーチ、アシスタントとして参加してもらって確保していければ。
8. まずは、体協の各団体が協力して受け入れる方法があります。
9. 立川市内中学校には、当該競技の部活が存在しないため、生徒や学校の要望があれば、連盟として最大限の協力をします。
10. 平日と休日で指導者が変わることによる混乱。「A学校と地域団体が緊密に連携して・・・」とありますが、指導方針が完全に共有できるか疑問です。
11. 普段の活動が高齢者が多くて、中学生と関わりがなかったので考えが及びません。
12. 教員の負担が増え、本業に影響があるということであれば、団体の確保もありかと思いますが、学校や教員の中には部活動も子どもの教育の一貫として学業と部活をセットで考える人もいると思うので、難しい問題だと思います。
13. 地域体育会等への周知及び運営委託。
14. 原則として地域の60歳以上を対象とした活動であり、中学生対象の活動としては、今一步「運動量」に欠けるのではないかと。高齢化、趣味・趣向の多様化もあり、当協会の会員数も減少化が目立つ。
15. 地域クラブ活動の運営団体・実施主体を確保していくためには、スポーツや文化活動の特性を考え、議論する必要があると思います。この推進計画（素案）は、抽象的な議論に留まっているので、具体的な種目ごと、部活動ごとに実施主体の確保についてどのような方針で押し進めるのか、早く具体案を見てみたいです。例えば、野球は「#####」、サッカーは「#####」等のように。立川市内の中学校が新たに部を創設し活動するとなれば、実施主体として協力する環境は整っていると思います。また、協会を活動に巻き込む形で何か良いアイデアが思い浮かぶかもしれません。立川市体育協会、各地区体育会、体育協会所属の競技団体、自治会等を巻き込んで、効果的で効率的な運営が可能な組織づくりがうまくできれば、運営団体・実施主体の確保が容易になっていくのではないのでしょうか。
16. 現在、市立中学校において部活動として行っている学校がなく、一から用具・人材を用意しなくてはならない状況としては、負担の面で指針が定まるとないと検討が難しい。
17. 市内中学校で部活動としてあるのが4校しかなく、すべての学校に外部指導員がついている状況です。学校に部活がないと保護者からも相談があるため、やりたい人が地域でできることは望ましいですが、誰が取りまとめるのか、場所を確保するのかを現状において協会として対応し継続することは難しいと思います。

18. 本市の市民大会の中に地区対抗戦が実施されています。また、連盟の理事選出では各地区からの選出があります。これらを利用して検討できると思います。
19. 現在実施している活動の中に中学生を対象としたメニューをどのような形で取り込めるか。市内の中学のレベルや学校格差の情報が手元にないので、結論がだしにくい。

【地区体育会】

20. 自身の体育会が主体的に確保できるか難しい気がする。実際の地区対抗種目は、各競技ごとに同連盟に加入した町内のサークルが主体なので、運営主体は、個々のサークルになると思う。従い、ただちに受け入れられるかもわからない。
21. 立川市の運営方法は、いわゆるスポーツクラブとは異なり、地域住民との連携無くして成り立たない。したがって、このままの運営を続けるのであれば、自治会への加入が条件となる。
22. どのように対応すれば良いか、具体的イメージが作れない。
23. 内容については理解できるが、地域の体育会としては運営はできない。理由は、地区体育会は、あくまで自治会の組織の一つとして地域の親睦と健康を目的とした活動を行っている。現在の状況は、自治会加入の減少に伴い、役員や専門部の人材も減少しており、体育会の存在自体危うい状態にあるため、地域の子どものためにも協力はしたいが、運営までは行えない。
24. 学校ができなければ、ただのスポーツ部では？学生（大学生）の活用としては。
25. 参画してくれる企業・ボランティア団体は地域によってさまざまかと思うので、一律に運営団体を指定するというよりは、推進運営する会議体を地域ごとに設けて、行政も関わっていく形態が望ましい。
26. 高齢者が大半を占める当体育会の現状。将来ある伸び盛りの中学生と健康維持レベルでの連携は無理がある。
27. 一部の活動支援はできても、部活動全部をいつまでも切れることなく支援できるとはとても思えません。
28. 現状、1団体での運営・実施は難しい状況にあり、他団体との連携が必要になってくると思います。
29. 運営団体は、確保することがかなり難しいと思います。地区体育会は、学校のニーズにどれだけ答えられるかレベルだと思います。（基本的に専門部は市民体育大会地区対抗種目のみ）

〈②指導者の量の確保、質の向上について〉

【競技団体】

30. 競技経験の親御さんが多いため協力可能。学校と相談の上、活動を決めていく。
31. スポーツ指導に関しては、昔と比べてスポーツの指導法も変わってきていて、ただ単に経験者では保護者や生徒たちの希望に添えない事が考えられます。若い指導者の確保は特に厳しいと考えられます。また、若い指導者の場合、熱心になりすぎ部員たちい対して厳しすぎる面も出てきますので、コンプライアンスの研修等を必ず行う方が良いと考えます。
32. 公認スポーツ指導者資格があれば問題ないが、そうでない指導者は、ハラスメントや救急対応などの知識は必要なので、研修会や講習会が必要だと思う。
33. 外部指導員への指導料等、公費負担を検討。
34. 若い人材がいいため難しい。
35. 難しいと思います。
36. 競技団体で指導者の技量を確認し、レベルアップをすることは可能。競技団体の練習会、大会等に参加してもらい、知識・技術の習得をしてもらう。
37. 多くの（公財）日本スポーツ協会の公認コーチ資格者が在籍しており、毎年指導者講習会を受講して指導の向上に努めています。
38. 指導者の適正な量（増減に対して）をキープし続ける方策はあるのですか？
39. 年代にあった指導内容の提供が大切であり、量の確保より、質の高い指導者の配慮が大切だと思います。公認指導者ライセンス制度があるため、その基準を設けるのも良いと思います。

40. 指導者の登録制度及び定期的な講習会の実施。
41. 参加意向はあるが、現状ではその実力が無い。つまり、長期の継続的な指導者の派遣はできない。
（時間的、金銭的、体力的等の問題も含有する）
42. 中学生の部活動について、立川市としてどのようなビジョンを指導者に対して示すのか、最終ゴール地点が明確になっていなければ、指導する側としては指導方針が明確になりませんし、そもそも指導者の就任を引き受けるか否かの判断ができません。すなわち、①スポーツ事業を強化して全国大会で優勝させるというビジョンなのか。②スポーツを通じて中学生の健康維持、体力の向上、人格の健全育成を図ることに重きを置くのか。③①と②の両方を取り入れ、多様性のある部活動とするのか。①は知識と経験が豊富なプロの指導者が必要になります。②は競技経験があり、人格にも問題なければ、誰もが指導者になります。プロの指導者は、部活動の指導者に就任するかを考える際に様々な事を考えます。自分の人生を懸けて行う指導と同等レベルの指導をするのか、片手間仕事で良いのか。報酬が受け取れるのか否か。自分の本業との境界線は明確か。部活動指導を職業にしてしまうのも、一つの方法かと思えます。指導者の量は増やせるのではないかと思えます。指導者の質の向上については、この素案に記載されていること（研修会の開催、ガイドラインの策定など）を行うしかないのかと思えます。
43. 一般の方への指導と違うと思われる点、けがなどの補償、生徒への注意、保護者への対応など、多岐にわたる対応をどうするのかがわからない。
44. 育成事業も行ってはいますが、地域連携していく中で、楽しく競技をしたい人、実力をつけるための機会と2つの内容に対応できた方がよいと思えます。
45. 適切な能力、資格、人格を備えた指導者の育成が先と思う。（同時並行）
46. やはり市民大会を活性化することが大事だと思います。また、学習等共用施設等の地区会館を活用して部活動ができればと思います。
47. 活動にはお互いの信頼関係が第一で、機会があれば担当部署の方々との内容を話し合える場を時々設定していただくと相談しやすいのですが。

【地区体育会】

48. 所属の各サークルが、日中学校に行ってできるものなのか実態がわからない。経験者といっても現役で働いていないメンバーは限られている。逆に中学生たちが、夜のサークル活動に参加することが現実的なのかも分からない。
49. 指導者の確保は非常に難しく、大学や競技団体と連携する必要があると考える。
50. 一部の運動については協力できる部分はあるが、ある程度の具体的なイメージを作らないと難しい。
51. 指導者の確保の取組みについては賛同するが、人材確保は各団体で行わなくてはならないが疑問。ただ、人材不足のため難しい。
52. 基本的な事はしっかりやって、あとは学生とともに向上していけばいいのでは。
53. 体育会も高齢化してきており、現在若手の指導に力を入れていますが、現在は厳しい状況です。
54. 競技種目によると思いますが、大学、企業スポーツクラブとの連携、公募等いろいろな方法が考えられます。
55. たぶん必要な人数を集めるのも、まして「質の向上」とまでは難しいか？できないことではないにせよ。
56. 一体育会のみで多くのスポーツを指導するのは無理。近くの体育会との連携が必要。お互いに得意な競技指導者の共有。所属する体育会の指導者の情報交換、マスメディアを活用して募集。有能な指導者には謝礼が必要。
57. 中学校部活動の指導するための講習会・勉強会が必要で、すぐに指導は不可能。
58. 必要なことと思えますが、あまりハードルを上げると対応が厳しくなり、量の確保が難しくなると思われる。

〈費用負担などについて〉

【競技団体】

59. 現在は、部活動指導員、外部コーチへの報酬が学校予算に組み込まれているため、正当に報酬が得られていない指導者の現状があります。予算は市が別枠で組んでいただきたいことは、声を大にしてお伝えしたいと思います。コーチがどれだけ自腹を切っているか、ボランティア精神に頼りすぎているのが現状です。
60. 地域指導者が、教師の負担を押し付けられたと感じさせないそれなりの報酬が必要と思う。保護者負担だけでは、それを確保できるか、かなり疑問である。
61. お金の問題が一番と思う。
62. どの程度の質・技量を目指すかによって違ってきますが、ある程度の技量を考えるならば、相応の費用（手当等）も考えなければならぬと思います。
63. 生徒の費用負担として、どの程度の費用負担を考えているのか。又は、費用負担は基本的に考えないのかによっても、方法、規模等が異なってくると思います。
64. 指導者確保に必要な予算について、かかる費用と捻出の用途は？

〈③その他〉

【競技団体】

65. 連盟の会議での議題に上げ、活動協力を計画していきます。保護者会などを踏まえ、指導方針や活動方針を必ず行う事で、事業計画をオープンにする。
66. まずは文化部、体育部で移行が進んでいる学校をモデルとし、その中で問題点、課題等の情報を共有し、後発の学校の指針としていくのが良いのではと考えます。専門性、経験、コンプライアンス、保護者対応、子どもの特性、他団体との関係、その全てが必要だと思えます。
67. 地域連携・地域移行は、行政の取り組み次第だと思っている。当連盟では、今年シニア教室を週一で行おうとしたが、会費徴収と定期開催は難しいとの行政の返答で断念した。地域移行を目前にして、先行事例として施行していただければと思っていたが、腰の引けた対応を取られたと感じている。
68. 詳細を把握していない。
69. 文化部は、年齢に関係なく指導ができるが、運動部の指導者確保は難しい。市内の高校のクラブと一緒に活動ができる場所、時間を作ることが一助になるのかなと思う。
70. 場所の確保として、学校の教室とか校庭が使える前提なのか、それ以外の場所になるかによって活動の考え方が全然異なってくると思います。保険の担保について、特に運動部の活動については、必須条件となります。
71. 昨年は市内中学校において、体育武道授業として採用されました。他の学校にも普及するようお願いしたい。
72. 1. 当協会としてもメリット（活動の活性化、活動の継続化など）もあるので、若年層希望者の「短期間、少人数等」の条件が合えば、ご相談したいと思います。
73. できることから着実に進める・・・とあるが、ゴールが示されていない。ゴールが曖昧のままで、どのようにして着実に進めることができるのでしょうか？例えば素案では、地域クラブ活動の運営団体・実施主体を（新たに）確保することが大前提のごとく記されていますが、立川市では既に教育委員会と各学校長の監督下で部活動外部指導員制を導入しており、この指導員の人数並びに適用範囲の拡大・有償化で主たる部活動を賄うことも可能でしょう。地域移行に関する検討委員会の第一回議事録にも「外部指導員の拡充、部活動は教育活動の一環」という言があり、これを前提とした場合にはおのずとゴールの姿が定まってくると思われます。一方、運営主体・実施主体を新たに設ける＝例えば体協が主体となる、あるいは営利目的のスポーツジムが主体となる場合には、ゴールの形もアプローチの方向も異なってきますまずは、立川市並びに教育委員会としてある程度の青写真（ゴール）を示していただいた方が適切な意見交換ができると思います。

74. 最近では自治会に入る世帯がほとんどなく、近所づきあいも希薄になりつつあります。隣に誰が住んでいて、どんな人たちが地域が構成されているのか、それを知ることは教育、防災、地域交流、経済活性化など、様々な場面で重要だと思います。中学校部活動の地域連携・地域移行は、中学生が地域と密接に関わる機会を作り出せる点や、地域の人たちも学生と関わることによって学生が何を考えどのように地域を捉えているのかを把握できるので、良い計画と考えます。また、学校という閉鎖的な場所での部活動から多様性のある開かれた地域交流の場での部活動へシフトすることは、いじめ対策などの副次的な効果も期待できると思います。課題は山積みしていますが、一つずつ解決すれば、きっと良い政策になるでしょう。ご苦労が多いと思いますが、素晴らしい政策になることを立川市民として期待しています。
75. 特殊な競技であり事故率も高いため、協会としての協力は難しい状況です。
76. 望ましいのは、地域の体育会が主体となり、その中で要望（親御さんたちからの）があがって、関係団体への打診・打ち合わせとなる流れが良いのでは。やはり負担についての指針は必要だと思います。
77. 中学の部活を引退し卒業し市外に出てしまったあとに立川市に戻ってきたときに、活動する場所がないという声があります。このような活動が市内でできる場所としてあると指導者としても活用できるのではと思います。すべての中学校に部活がない状況で中学生でも参加できるジュニアクラブがあり、そこでサポートもしていますが、ニーズはある種目であると思うので、移行の前に環境づくりも合わせて取り組んでもらえたらと思います。
78. 協会が週一回実施している練習会でもエネルギーを要しているので、それ以上となる場合を想定する資料が欲しいですね。前に進めていく場合のために。

【地区体育会】

79. 各競技部に、通年通して指導にいけるメンバーがいるか（可能か）聞いてみることはできる。逆に各サークルに中学生が行くこと自体は受け入れ可能かもしれないが、中学生たちが練習時間が塾なども含めてフィジビリティがあるのか具体的にモデルを組んでみないと何も言えなそう。
80. 既に外部専門家として携わっている地域の方もいらっしゃるので、できるところから少しずつ広げていくことが望ましいと思う。
81. ・地域での活動における卓球やバドミントン、女子ソフトボールなどは、実施団体への話はできる。また、協力を求めることも可。具体的なトライアルとして中学生の地域クラブへの参加を行ってみても良い。ただし、夜間実施など、基本的に課題もあるので、まずは個別相談からかと思えます。
82. 部活動の体制の継続が難しくなっている状況は寂しいが理解はできる。ただ、種目に特化している協会や連盟は、まだ可能かもしれないが、地域体育会レベルでは、運営までは不可能。ただ、現在も行っているが、夜間の専門部の練習等に中学生と一緒に参加することは、地域の親睦の観点からも可能。運営側にどこまで責任がでてくるかがわからないが、素案（１）③及び（２）①連携については重要で、生徒を一番理解している学校の連携と情報共有もしっかり行っていける体制が必要と考える。
83. 他の県でも実施している所はあるので、その資料をもっとしりたい。お金の問題を含めて。
84. 当面、地域連携・移行といっても具体的にはっきりしたイメージ・像があるわけではないので、立川市内ですで行われている事例、東京都内で行われている事例、全国の事例等をSNS等で紹介、共有してほしい。
85. 活動中の事故、トラブルの対応は、地域活動運営団体が行うと記載、負担がありすぎます。
86. まだまだ粗案の状態だと思う。とにかく何ともというか、難しいと思います。
87. 毎日曜日の実施は無理です。スタート時は3か月ごと、2か月ごと、1か月ごと、2週間に1度とか段階に回数を増す。
88. 部活動が減少傾向にある中で、学校、市は早急に対応が必要に思う。
89. 毎年流動的になるかもしれませんが、基本的には学校のニーズに答えられるかどうか。体育会として提供できる種目を実施する。現状では、どのように対応すれば良いのか等々わからないことだらけです。